



和歌山市に災害備蓄食料を寄贈

2020-08-31 (月) 13:17

災害時の避難生活の中でも、栄養価の高い食事をとってもらおうと、和歌山市に本社を置く健康食品販売製造会社から和歌山市に災害備蓄食料が寄贈されました。

今日、和歌山市役所で寄贈式が行われ、和歌山市朝日に本社を置く晃永コーポレーションの丸山弘晃代表取締役社長が、和歌山市の尾花正啓市長にお粥が入った災害用備蓄食料1000缶の目録を手渡しました。

これに対し、尾花市長から丸山社長に感謝状が贈られました。

今回、晃永コーポレーションから贈られた災害用備蓄食料「1缶バランス栄養食」は、一缶でたんぱく質、食物繊維、ミネラルなどがバランス良くとれる「穀物配合玄米粥」で、日本歯科大学新潟生命歯学部が監修しています。

丸山社長は災害へ備える必要性を考えるなかで、日本歯科大学の中野智子客員教授から、東日本大震災の際に避難所では菓子パンやインスタント食品が提供され、高齢者や子供たちが栄養問題で課題を抱えていたことを聞いたことから、避難生活の際の保存性や栄養価を重視したお粥の提供を決めたということです。

お粥の缶を手にした尾花市長は、「栄養面も考えた普段でも使える防災食ということで、非常に有難い」と寄贈を喜んでいました。

和歌山市総合防災課によりますと、今回、寄贈された災害備蓄食料は市が管理する備蓄倉庫に保管し、必要に応じ避難所に配分する予定だということです。